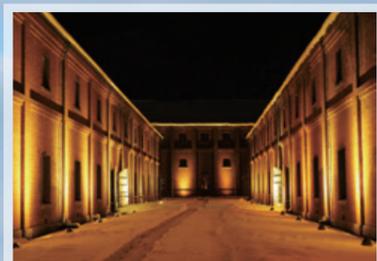


自然

豊かな自然に抱かれた美しいまち。四季折々の自然の中で紡がれた歴史や文化、そして人々の暮らし。私たちのまちでは、自然環境の保全を進め、人と自然が共存できる潤いあるまちづくりを進めています。



雪の赤れんがパーク



紅葉が美しい金剛院三重塔



舞鶴湾のリアス式海岸

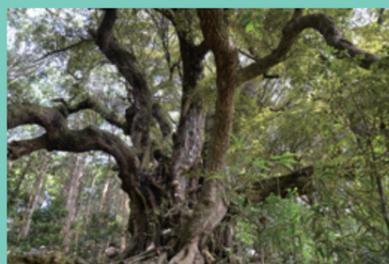


吉田のしだれ桜



オオキンレイカ

青葉山と丹後半島の一部にのみ自生する。舞鶴市の天然記念物に指定され、京都府では絶滅危惧Ⅰ種とされている。現在では京都大学が遺伝子解析を行い、青葉山への植え戻しが行われている。



成生岬のスタジイ巨木

大浦半島の海沿いの森、魚付林（うおつきりん）として大切に保護されている自然林に自生する、舞鶴市の天然記念物に指定された樹齢300年以上、胸高周囲13.8mもある日本最大級の巨木。



冠島と沓島

舞鶴市の北、若狭湾の無人島。舞鶴港から28キロある。オオミズナギドリ、ウミネコ、ヒメクロウミツバメの繁殖地。自然保護のため上陸を禁止されているため自然の宝庫である。

山迫る海の眺め
静かな海を
滑るように進む船
山々は深く鮮やかな
青みをたたえ
空を仰ぐと
突き抜けるように高い
まさに、風光明媚
清らかで美しい
自然の風景

Profile of
舞鶴市のプロフィール
その2

名産品・食

舞鶴市は豊かな海産物に恵まれ、安くて新鮮な魚介類が味わえます。また山々にも囲まれ、大地の恵みの農産物も豊富です。



活〆京のあかがれい

産地で味わう刺身が美味。独特の甘みと歯ごたえが絶妙。漁業者の努力が生み出した「活〆」、一度味わう価値あり。



マダイ

産卵前の桜の季節は身が充実して極上品。刺身に塩焼き、煮付け、鍋料理、潮汁など多種多様な料理に。



わかめ

水の澄み切った公害の無い綺麗な海水で育った舞鶴のわかめは、ミネラルやビタミンなど栄養豊富な海の健康食品。



舞鶴いちご



純米吟醸大杉

酒米づくりと仕込み水に平成の名水百選「大杉の清水」を使用した地酒。甘くまろやかな風味。



ノドグロ

近年、人気急上昇。引き締まった身にほどよくのった脂、コクのある味わいで煮ても焼いても美味。



大浦みかん

若狭湾と舞鶴湾に面した大浦半島の山間地の斜面で栽培されるみかん。濃厚な甘みとコクがあり、たっぷりの果汁を味わえる。



京鯖

定置網で漁獲される1.5kg以上のものを京鯖と呼ぶ。刺身にしても焼いても炙っても絶品。西京漬けの食材としても京料理に重宝される魚。



アマダイ

白身の魚で上品なやさしい甘みは高級料理の食材として好まれ、京料理には欠かせない食材。西京漬けや干物、塩焼き、酒蒸しに。



佐波賀だいこん

舞鶴発祥の野菜で「京の伝統野菜」に指定されている。大きな葉が特徴で栄養満点。辛みが強く、薬味としても活躍。



舞鶴特産落花生

由良川下流の砂地で栽培。手作業で焙煎し、味付けは食塩だけという素朴な味わい。



京の寒ぶり

ぶりの日本三大漁場と数えられる丹後の海。品質抜群の冬の味覚。

舞鶴かに®

京都府名産のかにといえば、丹後半島沖でとれる松葉かにが有名ですが、なかでも舞鶴漁港で水揚げされた松葉かにには「舞鶴かに」と呼ばれ、2012年に特許庁の地域団体商標に登録されたブランド蟹。



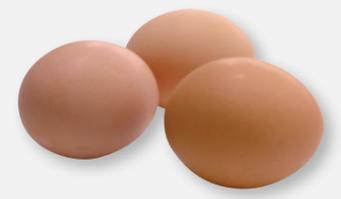
みんな、好きでしょ?!

通年で楽しむ舞鶴の名産品



舞鶴かまぼこ

近海でとれた鮮魚(シログチ、エソ、トビウオ等)のすり身を4割以上使用した、特有のコシがあるかまぼこ。京都府の特産物としても認められるほど美味。



西方寺のたまご

安心・安全に配慮した自家配合飼料で平飼いたったニワトリの有精卵。



舞鶴産のお茶

由良川流域の肥沃な土壌と恵まれた自然環境の中で育つ舞鶴のお茶。全国茶品評会かぶせ茶の部で5年連続産地賞全国第1位を獲得するほどの品質。



舞鶴のアルギット葡萄

大浦半島平地区で、ノルウェー産天然海藻「アルギット」を含んだ有機質肥料を用いて栽培されました。品種は藤稔、ピオーネ、シャインマスカットがあり、濃厚な味と食べ応えが自慢です。



京のブランド産品 丹後とり貝

京都府下で生産量第1位の舞鶴で育成された「丹後とり貝」は、その甘さや食感から、グルメの間で、大絶賛。大きくなるほどに、肉厚になり、柔らかく、独特の甘みを深め、とてもおいしくなります。



岩がき

舞鶴の夏の味覚といえば岩がき。栄養豊富な海で大きく育ち、濃厚でとろける味わいが絶品。(4月下旬～7月)

京のブランド産品 万願寺甘とう

京の伝統野菜・京のブランド産品として認証されている京野菜を代表する「万願寺甘とう」は、煮てよし・焼いてよし・揚げてよしの三拍子揃ったとうがらし。また、栄養成分が豊富な健康野菜としても人気があります。「地理的表示(GI)保護制度」に京都府で初めて登録されました。(5月中旬～11月中旬)



抹茶

由良川の雫

由良川沿いの肥沃な土地で育ち、石臼で丁寧に挽いた抹茶。



Profile of
Maizuru
舞鶴市の
プロフィール
その3

歴史

古代より積み重ねられてきた歴史に基づく私たちのまち。誇り高き歴史がここにはある。過去の宝を今、そして未来へつなぎ、伝統と革新が融合するまちづくりを進めています。

2020年 NHK大河ドラマ
「麒麟がくる」放送中!
ワジも出ておるぞ!

古今伝授を伝える 風流人・幽斎の城跡

戦国時代、織田信長の命により一色氏を滅ぼし丹後を平定した細川藤孝(幽斎)が、田辺の地に新しく築いたのが田辺城(別名舞鶴城)です。関ヶ原合戦の前哨戦として石田三成方の一万五千の兵に城を囲まれた幽斎は約二ヶ月もの間、田辺城に籠城しました。この時、後陽成天皇の勅命で包囲が解かれたというのは有名な話です。これは幽斎が「古今伝授」を伝える唯一の人物であったからだといわれています。

江戸時代に入り、京極氏、牧野氏と藩主を代え、正徳元年、城下町は本町を中心に一六カ町を形成し、その中でも高野川河口の竹屋町は領内の物資の集散地として発達しました。こうして生活に余裕の生まれた町衆が生み出した芸屋や振物などの民族文化財は、城下町特有の町衆文化として、現代は朝代神社の祭礼などに見られ、今もなお人々に大切に引き継がれています。



ゆうさいくん



細川幽斎像(天授庵所蔵)

ほそかわゆうさい
ふじたか
細川幽斎(藤孝)
(1534-1610)

足利義昭、織田信長などに仕えた安土桃山時代の武将。また、和歌、古典、有職故実、音曲、茶道、料理など、あらゆる学問や芸能を極めた当代屈指の文化人でもありました。市内には、金剛院庭園や年取島など幽斎ゆかりの史跡や伝承が数多く残っています。



田辺籠城図
城の見取り図に城方と敵方の配置などを書き込み籠城の様子を描いた絵図。



古今伝授

「古今和歌集」の解釈の秘伝を伝えること。田辺籠城のなかで幽斎は「古今からわらぬ世の中に、心の種を残す言の葉」の歌とともに次の相伝者・智仁親王にその想いを託しました。



芸屋台
江戸時代に行われていた子ども歌舞伎の舞台。

吉原地区



田辺籠城戦の際、水軍に劣らぬ働きをしたことにより、領内の波打ち際3間の漁獲が自由に認められるという特権を得た吉原地区。江戸中期に移転したままの町割りを残し、水路に船を停泊させるなど、漁師町特有の風情が漂う。

古代から続く海の恵み



丸木舟

約5300年前の丸木舟。幅約1m、舟底の厚さ約7cm。幅から推定した全長は約8m。



湊十二社奉納和船

船底中央に「甲ノ蔵」と「子ノ蔵」の墨書銘。船尾の反りが急で、幅が広く、幕末期の特徴を多く示す。全長1486cm。嘉永5年(1852)。



深い歴史を持つ
舞鶴の伝統行事
の数々!

吉原の太刀振

(府登録無形民俗文化財、市指定無形民族文化財)
田辺籠城戦が由来とされる。朝代神社秋の例大祭で4年に1度奉納される祭礼芸能。



日本海のほぼ中央に位置する舞鶴湾は、むかしから天然の良港として開けてきました。自然の地形に恵まれた波静かな港のルーツは、はるか縄文時代までさかのぼります。

平成一〇年、舞鶴湾口に位置する浦入遺跡群から約五三〇〇年前のわが国で最古・最大級の「丸木舟」が発見されました。また、他地域との交流を示す土器や石器も出土し、縄文時代から海とともに人々が生活してきたことが分かります。

飛鳥時代から平安時代にかけて舞鶴は当時の「都」と深く結びついており、貨幣の出土、食料を献上したことを示す木簡、朝廷ゆかりの人々による寺の開山などが歴史を物語っています。また、江戸中期頃からは、大阪へ北国の米を運ぶ北前船も就航しました。廻船業に従事した人々の航海の安全を願って作られた「奉納和船」と呼ばれる和船の模型が現存しています。このような時の流れと海の恵みが、現代の港湾都市・舞鶴の礎となっています。

Profile of
Maizuru
舞鶴市の
プロフィール
その4

文化

時を超えて現代に受け継がれてきた文化と芸術の粹。私たちの街では、独自の文化を守り、そして、享受することで、より豊かな暮らしのあるまちづくりを進めています。



じんじゃたいしよりゅうどう
深沙大将立像(国重文)
唐の玄奘三蔵が天竺への旅の途中に感得したと伝えられる仏教の守護神。湧き上がるような頭髪や筋骨たくましい堂々とした肉取りなど写実的な迫力に満ちています。鎌倉時代の名仏師快慶の代表的な名品。



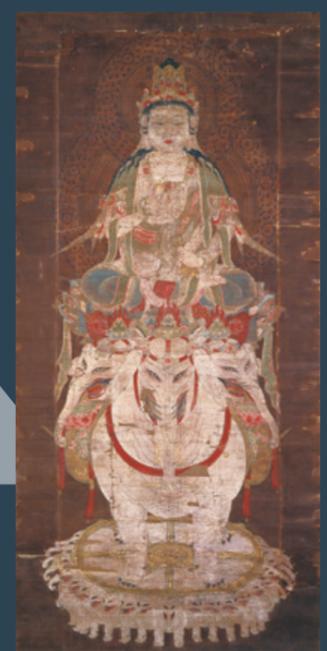
金剛院(こんごういん)
志楽の谷の東南、鹿原川をさかのぼる雲山幽谷の地にあり、平安時代の初頭に高岳親王によって開かれ、白河天皇が中興したと伝えられる名刹。



多禰寺(たねじ)
大浦半島三浜岬西方の山中に位置する古刹。聖徳太子の異母弟麻呂親王によって開かれたと伝えられています。



こんごうきしりゅうどう
金剛力士立像(国重文)
仏法を守る阿吽2体1対の力士形で、裳と天衣をまとい、激しい忿怒の相をしています。高さ3.5メートルを上回る巨像で躍動感あふれるその姿は運慶と伝えられています。



ふけんえんめいどう
普賢延命像(国宝)
丹後地方唯一の国史絵画で平安仏画の代表作品



松尾寺の仏舞(府指定重要無形民俗文化財)
中国から伝わった宮廷舞楽が民間芸能として松尾寺に定着。如来様の面をつけ越天楽の譜に合わせて優雅に舞います。



松尾寺(まつのおでら)
丹後・若狭の境にそびえる青葉山の中腹にある古刹。和銅元年(708年)に威光上人によって開かれたと伝えられています。

海辺の京都浮世絵コレクション 糸井文庫

舞鶴市指定文化財糸井文庫は、与謝郡与謝野町出身の実業家、糸井仙之助(一八七四〜一九四九)が、多年にわたり収集した丹後地方に関連のある書籍、古文書等約二、二〇〇点におよぶ郷土資料である。これらは、元舞鶴市長水嶋彦一郎(一八八二〜一九五三)の奔走により、昭和二十四年一月、その大部分を本市が譲り受けた。文庫の内容は、江戸時代から昭和初期に及んでおり、郷土資料として貴重なものである。
なかでも、酒吞童子、浦島太郎、三庄太夫など丹後地方の伝説を題材にした浮世絵は、全国的にも匹敵するものが見当たらず、地域性豊かなコレクションがその地元舞鶴にあるということも高く評価される。

夏の三人行事



城屋の揚松明
(府登録無形民俗文化財 市指定無形民俗文化財)
大正期とともには伝わる奇祭で、深夜16時の大松明に小松明を投げあてて点火する群衆は火祭り。



小橋の精霊船行事
(府登録無形民俗文化財)
海崎寺にまつられた施餓鬼の旗やお供物、家々の門に設けられたお供物が、子供たちの手で精霊船に積み込まれ、沖に流されます。

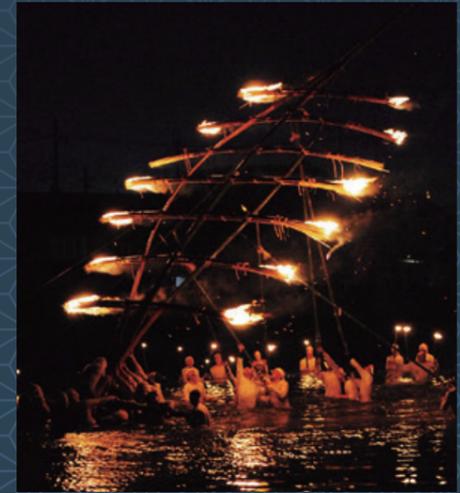
酒吞童子



三庄太夫



浦島太郎



吉原の万灯笼(府登録無形民俗文化財)
約300年前、くらのげの大群と不漁に苦しんだが海神の心を和らげ、くらのげ退治、海難防止、豊漁等を祈願して行われてきたもの。